

## 郷土伝統文化継承クラブ

私たちは、現在部員13名で、先生方に指導してもらいながら日々研鑽しております。

### 「ばんしゅうかぶき」とは

京、大坂、江戸の大都市で流行した歌舞伎が江戸時代の中頃には農村にも広がり、村々にも芝居小屋が建てられ、各地に座・劇団が興りました。これら農村舞台や仮設の小屋で芝居をしていた役者で、特に播磨地方に住む人たちがその座、劇団を、播州歌舞伎と呼んでいます。舞台と客席のやりとりが持ち味で、都市の大歌舞伎を超えた大衆性を持ち、庶民の娯楽として非常に親しまれました。

加西市北条町東高室は、江戸時代文化文政の最盛期には、多くの座が起こり、高室歌舞伎とも呼ばれ、明治大正と受け継がれましたが、昭和に入り急激に衰えました。播州一円に広がった歌舞伎の座をとりまとめ、播州歌舞伎と統一名で呼ぶようになりましたが、現在最後の一座が残るのみになってしまいました。

### 播磨農業高等学校「郷土伝統文化継承クラブ」について

この誇り高い郷土の無形文化財を、発祥の地に建つ播磨農業高校で末永く守り続けるため、1984（S59）年に教育委員会から「郷土伝統文化推進校」の指定を受け、1989（H元）年には歌舞伎舞台棟を建てていただきました。そして、私たち部員は、唯一続いている播州歌舞伎の座である嵐獅山一座の嵐獅山、中村和歌若、両御師匠のご指導のもとで練習、公演を重ねております。

